



山桜会 創立90周年に向けて

学院とともに歩み続ける山桜会

校友会 山桜会
会長 川原 俊明

■はじめに

会員の皆様には、いつも山桜会活動にご支援ご協力いただき、誠にありがとうございます。おかげさまで、母校の教育改革支援を目標に掲げた山桜会活動により、山桜会と母校との連携が一層強固なものとなり、山桜会が母校の教育改革にとって強力な牽引力の一つとなったことを自負しております。

■90年の歴史

さて、母校・追手門学院は、2008年に創立120周年を迎えます。卒業生の同窓会組織である校友会山桜会も、2006年には、創立90周年を迎えることになりました。

山桜会は、母校・追手門学院とともに、着実な歩みを続けてまいりました。1916年(大正5年)、当時の片桐校長のご尽力で「桜会」が結成され、今日の山桜会に進化を遂げたのです。そして今、90年目を迎えようとしています。

本学の多くの先輩方による努力の積み重ねと、輝かしい社会貢献により、今日の山桜会があります。

■山桜会の活動指針

この歴史と伝統をふまえて、山桜会は母校と一心同体の関係にある、ということを再認識する必要があります。

この位置付けの中、志を同じくする同窓会仲間として、山桜会は、さらに母校の教育支援を推し進め、活動範囲を広げていく必要があります。

私学・追手門学院の将来は、ひとえに卒業生の活躍にかかっているのです。

将来、世界で活躍できる人材を育てることが母校・追手門学院の役割であり、その母校を支えるのが卒業生のつとめです。

すなわち、卒業生の同窓会組織である山桜会は、必然的に母校の発展に寄与すべき責務がある、ということになります。

母校に対する教育改革支援活動。これもまた、同窓の親睦活動とともに、山桜会活動の根幹をなすものであると考えています。

■90周年記念事業の位置づけ

この考えからすると、2006年に予定されている山桜会の90周年記念事業は、山桜会単体の記念事業ということではなく、学校法人追手門学院としても、母校創立120周年記念事業の一環としてとらえ重要な記念事業であるという認識を持っていただく必要があります。

その意味で、学校法人はもとより、大学校友会、PTA、教育後援会、父母の会を含め、全学で支援していただけるような盛大な記念事業を開催していきたいと考えています。

山桜会創立90周年記念事業として、すでに具体化された企画は、いずれも母校創立120周年記念事業としても、目玉になるようなもののばかりです。

2006年1月28日(土)の記念新年会から始まり、10月29日(日)の記念パーティー(リーガロイヤルホテル)を中心に、9月の記念ゴルフ大会などがあります。

特筆すべきは、3月18日(土)開催の日本銀行総裁福井俊彦氏の記念講演会。講演内容は「活力ある日本経済の実現に向けて」。経済に関心のある大学生や実業家の会員には特に関心があるのではないのでしょうか。

また、本学卒業生で、世界的に活躍するオーケストラ指揮者湯浅卓雄指揮にかかる大阪フィルハーモニー交響楽団記念コンサート。11月8日(水)ザ・シンフォニーホール。湯浅氏は、現在、英国アルスター管弦楽団首席客演指揮者として、世界を駆けめぐっています。

■山桜会の将来像

山桜会の90周年記念事業は、あくまで母校と山桜会にとって、将来の発展をめざす一里塚に過ぎません。教育改革支援活動を追い求めながらも、追手門学院の特質ともいえるアットホームな雰囲気を持続させ、後輩に受け継ぎながら、追手門ファミリー結束の中心組織となることが、山桜会のあるべき将来の姿だと考えています。皆様のご健勝をお祈りします。